令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	人文科学			授業形態	講義	教員名	菊池　泰子		
科目区分	基礎分野	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生

授業概要	「コミュニケーション演習」
授業の到達目標	様々な場面における、聞く・話す・読む・書くの4技能を柱に,コミュニケーションの方法を振り返り、社会人として必要なスキルを身につける.
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 コミュニケーションしてみよう　序章 効果的な自己紹介と自己開示 第2週目 コミュニケーションの基本を身につけようI　第1部1章-1 アクティビティ1 第3週目 コミュニケーションの基本を身につけようⅡ　1章-2 アクティビティ2 第4週目 きれいな発声・発音を身につけよう　2章 アクティビティ3 第5週目 正しい日本語を身につけよう　3章 アクティビティ4 第6週目 話す時の心構えを理解しよう　4章 アクティビティ5 第7週目 効果的な話し方を身につけようI　5章-1 アクティビティ6 第8週目 効果的な話し方を身につけようⅡ　5章-2 アクティビティ7 第9週目 効果的な表現力を身につけようI　6章 中間演習 第10週目 聞くことの重要性Ⅰ　第2部1章-1 アクティビティ8 第11週目 聞くことの重要性Ⅰ　1章-2 アクティビティ9 第12週目 聞くことの重要性Ⅲ　1章-3 アクティビティ10 第13週目 試験対策　試験対策 第14週目 試験 第15週目 試験FBとコミュニケーション検定の紹介 内容は多少変更あり （授業の方法および自学学習について） 毎回課題アクティビティがあるのでそれに取り組み、課題アクティビティ・参加度として点数化する。
教科書・参考書等	『コミュニケーション技法』（ウィネット）
成績評価の方法	①期末試験70%（70点） ②授業参加度15%（15点満点）→授業出席で1点（授業態度により0点になる場合もある） ③アクティビティ達成度15%（15点満点）→授業内課題やタスクを行って1点（達成度により0点になる場合もある） 上記評価の総合成績が60/100点（60%）以上とする。
実践的教育に関する経歴等	芸術修士（MFA),高等学校国語1種免許,日本語教育能力検定試験合格,国家資格登録日本語教員,コミュニケーション検定上級合格,文化庁「就労者に対する日本語教師養成研修」修了

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	社会科学			授業形態	講義	教員名	吉田　理		
科目区分	基礎分野	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生

授業概要

社会人として必要とされる基本の一つである「教養」について共に学ぶ。

授業の到達目標

現代の社会はこれまでの常識が通用せず、かといって諸外国の例も参考にならない非常に生きづらい世と言える。このような時代に於いて、社会人として或いは一個の人間としてどのように生活を送り自己を保っていくべきなのであろうか。本講義では阿部謹也『「教養」とは何か』を基に学生諸君と共に考えながらその答えを探ろうとするものである。

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目 ガイダンス。 現代の社会とは何か
第2週目 コミュニケーションについて
第3週目 自己の把握について
第4週目 少子高齢化について
第5週目 少子高齢化について・その2
第6週目 情報化社会について
第7週目 国際化社会について
第8週目 日本古来の教養について
第9週目 宗教について
第10週目 宗教について・その2
第11週目 建前と本音について
第12週目 建前と本音の区別について
第13週目 大人になるとは何か。 小テスト
第14週目 前期末試験
第15週目 答案返却・解説。 後期授業説明
第16週目 後期ガイダンス…プレゼンテーション
第17週目 プレゼンテーション訓練
第18週目 個人の教養について
第19週目 プレゼン①、 孤独について
第20週目 プレゼン②、 友情について
第21週目 プレゼン③、 恋愛について
第22週目 プレゼン④、 防衛機制について
第23週目 プレゼン⑤、 源流思想「愛」について
第24週目 プレゼン⑥、 教養とは何か
第25週目 プレゼン⑦、 茶道と教養
第26週目 プレゼン⑧、 葬式と世間
第27週目 プレゼン・補、 子供の教育について
第28週目 世間からの自由。 小テスト
第29週目 後期末試験
第30週目 答案返却・解説。 後期授業説明

（授業の方法および自学学習について）

・板書中心の講義形式を基本とするが、しばしばアクティビティを導入する。
・他に例のない講義内容となるので休まず集中して臨むこと。

教科書・参考書等

阿部謹也『「教養」とは何か』講談社現代新書

成績評価の方法

期末試験の他に、平常点（出欠、授業態度）やプレゼンテーションを加味する。以下参照のこと。
①前期期末試験40%(80点)
②前期平常点　10%（20点）…欠席2回目以降1回につき-2.5%(5点減点)、長時間の居眠りやスマートフォン操作・内職、私語など授業不参加の態度が注意(概ね2回)によっても改善されない場合は欠席に準ずる。
③後期期末試験25%(50点)
④後期平常点　5%（10点）…前期に同じ。
⑤ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 20%（40点）…期末試験内の文章評価10%(20点)を含む。プレゼンテーションは全員必須であり、不実施の場合 原則として単位の認定は困難であることを承知のこと。
上記評価の総合成績が120/200点（60%）以上とする。

実践的教育に関する経歴等

①法人事務長（15年）、②高等学校進路(進学・就職)担当責任者（5年）、③教員採用試験及び公務員採用試験予備校人物対策担当責任者（14年）、④高等学校教諭専修免許状(社会)・同一種免許状（国語）

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	保健体育			授業形態	実技	教員名	髙橋　孝義		
科目区分	基礎分野	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	①健康を維持するに必要な体力増進の方法と実践 ②柔道を通した効率的な身体の動かし方 ③心身の機能や健康などにいての理解 ④武道（柔道）を通しての身体精神の鍛錬修養									
授業の到達目標	・安全に受け身が出来るようになる。 ・投げ形「手技、腰技、足技」を習得する。 ・投げ技の理論を理解し技術を身につけ約束乱取が安全に出来るようになる。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 諸注意、柔道の起源、歴史、柔道着の着方 第2週目 回転運動、受け身（後方受け身） 第3週目 回転運動、受け身（後方受け身） 第4週目 回転運動、受け身（横） 第5週目 回転運動、受け身（横） 第6週目 回転運動、受け身（前） 第7週目 回転運動、前方回転受け身 第8週目 回転運動、前方回転受け身 第9週目 回転運動、前方回転受け身 第10週目 回転運動、前方回転受け身 第11週目 回転運動、前方回転受け身 第12週目 前方回転受け身、投げ形（手技） 第13週目 前方回転受け身、投げ形（手技） 第14週目 試験 第15週目 前方回転受け身、投げ形（手技） 第16週目 前方回転受け身、投げ形（腰技） 第17週目 前方回転受け身、投げ形（腰技） 第18週目 前方回転受け身、投げ形（腰技） 第19週目 前方回転受け身、投げ形（足技） 第20週目 前方回転受け身、投げ形（足技） 第21週目 前方回転受け身、投げ形（足技） 第22週目 投げ技（大腰）、固め技（けさ固め） 第23週目 投げ技（体落し）、固め技（上四方固め） 第24週目 投げ技（足払）、固め技（横四方固め） 第25週目 立技反復、絞め技・関節技 第26週目 立技反復、約束乱取 第27週目 立技反復、約束乱取 第28週目 立技反復、約束乱取 第29週目 試験 第30週目 紅白試合 （授業の方法および自学学習について） 本講義は、柔道場およびトレーニング室にて主に講義を行う。各学生は柔道着またはトレーニングを行いやすい衣服にて講義に望むこと。 ※柔道の場合は柔道着を必ず着る事。 ※仕方のない理由で見学する場合も可能な限り柔道着を着るようにすること。 講義の進行状況により、教室にて講義を行う場合もある。									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	①欠席1回につき10点減点　②見学及び遅刻は5点減点（怪我、体調不良に関しては考慮） 【前期実技試験】礼法25点、受け身25点（50点）と出席点（減点がなければ50点） 【後期実技試験】受け身25点、投げ形25点（50点）と出席点（減点がなければ50点） やむを得ない理由により、実技試験が受験できなかった場合はレポート課題の提出により、総合的に判断し単位を認める ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	高等学校教員免許（保健体育）									

令和 8年 度シラバス

柔道整復科学科

授業科目名	外国語			授業形態	講義	教員	箱島 千賀			
科目区分	基礎分野	単位数	4単位	時間数	60時間	期間	通年	30回	対象学年	1年生

授業概要

高校過程までに学習した内容を基礎とし、日常生活や医療現場で役立つ英語表現を身につけ、コミュニケーションが図れるようになることを目指します。医療英語には少し難しい発音を持つ単語がありますので、声に出して実際に練習することが大事です。テキスト付属のCDを多く聞くようしましょう。病院などで遭遇しそうな場面・内容を取り入れてケーススタディーごとに、身近な英語表現が使えるようになるための発音発話練習、リスニング練習を多く取り入れていきます。積極的にクラスに参加しましょう。

授業の到達目標

1 基本的な英文法をコミュニケーションの中で使えるように練習します。〈文法→話す〉
2 英語リスニングを鍛えましょう。そのためには正確に発音できることが大事です。〈リスニング→話す〉
3 日常生活や医療現場でよく使用される語彙や表現を知り、英語コミュニケーションに役立てましょう。〈正確な発音発話→話す〉
4 人々の生活や価値観について異文化理解を深めましょう。〈異文化理解〉

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目	Class Guidance	第16週目	Lesson 7 Reception Desk 再診受付(1)
第2週目	Lesson 1 Basic Words and Phrases はじめの一歩（1）	第17週目	Lesson 7 Reception Desk 再診受付(2)
第3週目	Lesson 1 Basic Words and Phrases はじめの一歩（2）	第18週目	Lesson 9 Symptoms and Diseases 症状と病名(1)
第4週目	Lesson 2 Body Parts and Organs 体と内臓（1）	第19週目	Lesson 9 Symptoms and Diseases 症状と病名(2)
第5週目	Lesson 2 Body Parts and Organs 体と内臓（2）	第20週目	Lesson 10 Medical Terminology 医療用語【略語】(1)
第6週目	Lesson 3 Hospital Registration 新患受付（1）	第21週目	Lesson 11 Getting to the Hospital 病院へのアクセス(1)
第7週目	Lesson 3 Hospital Registration 新患受付（2）	第22週目	Lesson 11 Getting to the Hospital 病院へのアクセス(2)
第8週目	Lesson 4 Hospital Registration Forms 診察申込書（1）	第23週目	Lesson 12 Finding Your way Around 案内(1)
第9週目	Lesson 4 Hospital Registration Forms 診察申込書（2）	第24週目	Lesson 12 Finding Your way Around 案内(2)
第10週目	Lesson 5 Personal Information 個人情報（1）	第25週目	Lesson 13 At the Cashier's Window 会計(1)
第11週目	Lesson 5 Personal Information 個人情報（2）	第26週目	Lesson 13 At the Cashier's Window 会計(2)
第12週目	Lesson 6 Admissions 入院受付（1）	第27週目	Lesson 14 At the Pharmacy 薬局(1)
第13週目	Lesson 6 Admissions 入院受付（2）	第28週目	Lesson 14 At the Pharmacy 薬局(2)
第14週目	期末試験 Review 1-6	第29週目	期末試験 Review 7-14
第15週目	期末試験 正答確認・問題解説	第30週目	期末試験 正答確認・問題解説

(授業の方法および自学学習について)：毎回授業の中で、解答や練習成果を発表してもらいます。

[授業方法]

(1)テキストを使用して会話表現や会話を練習します。授業の中では英語の単語、表現、会話文の音声を繰り返し聞いて、発音、発話の練習します。
(2)テキストにある練習問題を解きながら、英語表現の知識を定着させます。
(3)英語コミュニケーションを身近に感じて使えるようにするために、ペアを組んで、会話練習を行います。

[自主学習について]

事前学修：英語単語・表現の意味を調べましょう。(2)テキストCDを聞きましょう。

事後学修：授業で行った練習を振り返り、声を出して発音・発話練習をしてみましょう。

教科書・参考書等

『Basic English for Medical Office Assistants 医療事務スタッフをめざす人のための医療英語』(南雲堂) ※毎回、電子辞書or英和辞典を持参すること。(必須)

成績評価の方法

前期 (1)期末試験(30%) 60点 (2)授業取り組み(20%) 40点
後期 (1)期末試験(30%) 60点 (2)授業取り組み(20%) 40点
前期後期共通(2) 授業取り組み40点 (20%)
[内訳]
①授業内の発表30点[発表1回2点×15回](15%)、基準点未満を-0.5%～-1%(-1～-2点)とする。但し、15%(30点満点)より下回ることはない。
②ペアによる会話発表10点[5点×2回] (5%)、基準点未満を-0.5%～-2.5%(-1～-5点)とする。但し、5%(10点満点)より下回ることはない。
上記評価の総合成績が120/200点(60%)点以上とする。

実践的教育に関する経歴等

1 東北学院大学非常勤講師現職、宮城学院女子大学非常勤講師現職、日本大学工学部非常勤講師現職、石巻赤十字看護専門学校非常勤講師現職

2 中学校、高等学校教員免許(英語)

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	解剖学Ⅰ			授業形態	講義	教員名	市川　博之		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	ヒトの体の細胞、組織、また消化器、呼吸器、脈管系に関して肉眼解剖学的および顕微解剖学的な知識を習得することが一義的な目標であるが、同時にそれらに関わる様々な疾患の症状や診断に有用な知識として活用する力をつける。脈管系に関しては、特に体表からの位置をイメージできるようになることを目的とする。								
授業の到達目標	1）解剖学について医学の中の基本的な位置づけ、考え方、学び方を学ぶ。 2）顕微解剖としての細胞、組織を説明できる。 3）消化器系、呼吸器系、脈管系について解剖学的知識を習得する。								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 解剖学概説　意義と分類　細胞 第2週目 細胞、組織 第3週目 組織 第4週目 消化器概略 第5週目 消化器　口腔 第6週目 消化器　咽頭、食道 第7週目 消化器　胃 第8週目 消化器　小腸と大腸 第9週目 消化器　肝臓 第10週目 消化器　膵臓、胆嚢 第11週目 呼吸器　鼻腔、副鼻腔 第12週目 呼吸器　喉頭、気管、気管支 第13週目 呼吸器　肺 第14週目 前期期末試験 第15週目 試験解説など 第16週目 泌尿器 第17週目 泌尿器 第18週目 脈管総論 第19週目 心臓 第20週目 心臓の構造、心膜 第21週目 心臓の刺激伝導系、栄養血管 第22週目 動脈概観、頭頚部の動脈 第23週目 上肢の動脈 第24週目 胸部腹部の動脈 第25週目 骨盤部、下肢の動脈 第26週目 静脈概観、静脈の特異な構造 第27週目 静脈の特異な構造、胎児循環 第28週目 リンパ性器官 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験解説など （授業の方法および自学学習について） ・基本的に講義はスライドを用いた講義とするが、講義前に教科書を読んでおくことが望ましい。								
教科書・参考書等	解剖学　改訂第2版　公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版								
成績評価の方法	前期、後期期末試験の試験結果で評価を行う。ただし再試験においては課題に対する提出レポートの有無、内容などについても評価に加える。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	①歯科医師免許								

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	解剖学Ⅱ			授業形態	講義	教員名	市川　博之		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	ヒトの体の生殖器系・内分泌系・神経系について肉眼解剖学的および顕微解剖学的な知識を習得することが目標である。同時に患者の神経筋疾患などの症状やメカニズムを理解するための知識を習得する。									
授業の到達目標	1）生殖器系・内分泌系について、肉眼解剖および顕微解剖学的知識を習得する。 2）神経系について、肉眼解剖および顕微解剖学的知識を習得する。 3）神経系について臨床的に診断、治療に利用できる知識と考え方を身につける。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 生殖器系 第2週目 生殖器系 第3週目 内分泌系 第4週目 内分泌系 第5週目 内分泌系 第6週目 神経系総論 第7週目 中枢神経　脳幹 第8週目 中枢神経　脳幹 第9週目 中枢神経　間脳、小脳 第10週目 中枢神経　大脳 第11週目 中枢神経　大脳 第12週目 中枢神経　脊髄、伝導路 第13週目 伝導路 第14週目 前期期末試験 第15週目 試験解説など 第16週目 末梢神経総論 第17週目 脳神経 第18週目 脳神経 第19週目 頚神経 第20週目 胸神経、腰神経 第21週目 腰神経 第22週目 仙骨神経 第23週目 仙骨神経、尾骨神経 第24週目 自律神経 第25週目 自律神経 第26週目 感覚器 第27週目 感覚器 第28週目 感覚器 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験解説など （授業の方法および自学学習について） ・基本的に講義はスライドを用いた講義とするが、講義前に教科書を読んでおくことが望ましい。									
教科書・参考書等	解剖学　改訂第2版　公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版									
成績評価の方法	前期、後期期末試験の試験結果で評価を行う。ただし再試験においては課題に対する提出レポートの有無、内容などについても評価に加える。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	①歯科医師免許									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	生理学Ⅰ			授業形態	講義	教員名	寺村　聡司		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生

授業概要

人体の機能を学んでいく中で生理学の仕組みを把握し、柔道整復師として必要不可欠な基礎知識を習得していく。

授業の到達目標

・各種機能について理解できる

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目	血液の生理学　役割、組成	第16週目	尿の生成と排泄　腎臓の構造と機能
第2週目	血液の生理学　止血	第17週目	尿の生成と排泄　尿の生成
第3週目	血液の生理学　血液型、免疫	第18週目	尿の生成と排泄　腎血流量、排尿
第4週目	血液の生理学　免疫	第19週目	尿の生成と排泄　体液調節
第5週目	循環の生理学　心臓（機能的解剖、心電図）	第20週目	栄養と代謝　栄養素、エネルギー代謝
第6週目	循環の生理学　心臓（心臓の活動周期）、血管	第21週目	栄養と代謝　栄養素の代謝、食物と栄養
第7週目	循環の生理学　血管、リンパ系	第22週目	消化と吸収　消化器系の構成とはたらき
第8週目	循環の生理学　循環調節	第23週目	消化と吸収　食物の消化と吸収
第9週目	呼吸の生理学　換気	第24週目	消化と吸収　食物の消化と吸収
第10週目	呼吸の生理学　ガス交換と運搬	第25週目	消化と吸収　各栄養素の消化と吸収
第11週目	呼吸の生理学　呼吸の調節	第26週目	まとめ
第12週目	まとめ	第27週目	まとめ
第13週目	まとめ	第28週目	まとめ
第14週目	まとめ	第29週目	まとめ
第15週目	期末試験	第30週目	期末試験

（授業の方法および自学学習について）

教科書をよく読み、演習問題について十分に復習すること

教科書・参考書等

生理学第4版（南江堂）

成績評価の方法

各学期内に行う期末試験によって評価する。（100%）

※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

医師

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	生理学Ⅱ			授業形態	講義	教員名	石川陽二郎/尾股 聡		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生

授業概要

人体の機能を学んでいく中で生理学の仕組みを把握し、柔道整復師として必要不可欠な基礎知識を習得していく。

授業の到達目標

・生理学、神経の機能、感覚の生理、内分泌、生殖についての重要事項を理解できる。

授業内容・計画

（授業計画）

前期	後期
第1週目 生理学とは①　前期ガイダンス	第16週目 内分泌①　後期ガイダンス
第2週目 生理学とは②	第17週目 内分泌②
第3週目 生理学とは③	第18週目 内分泌③
第4週目 神経の機能①	第19週目 内分泌④
第5週目 神経の機能②	第20週目 内分泌⑤
第6週目 神経の機能③	第21週目 内分泌⑥
第7週目 神経の機能④	第22週目 生殖①
第8週目 感覚の生理①	第23週目 生殖②
第9週目 感覚の生理②	第24週目 生殖③
第10週目 感覚の生理③	第25週目 生殖④
第11週目 感覚の生理④	第26週目 生殖⑤
第12週目 まとめ①	第27週目 まとめ①
第13週目 まとめ②	第28週目 まとめ②
第14週目 まとめ③	第29週目 まとめ③
第15週目 **期末試験、解説**	第30週目 **期末試験、解説**

（授業の方法および自学学習について）

・対面授業またはオンラインによる授業のいずれかで実施する。

・授業内で配布する演習問題を教科書をつかって復習して学習ポイントを理解すること。

・一度で理解するのは難しいため、繰り返し復習することを希望する。

教科書・参考書等

・生理学改訂第4版（南江堂）

成績評価の方法

前期・後期それぞれ期末試験（100点）で評価する。

※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

医師

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	運動器の構造と機能Ⅰ			授業形態	講義	教員名	草刈　直貴		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	医療に携わる者として運動器の知識は重要である。柔道整復師であれば必須の知識となる。本講義では柔道整復師として必要不可欠な運動器の知識を修得することで、柔道整復術を学ぶための基礎作りを目的とする。									
授業の到達目標	1）運動器の形態と構造を学習し理解する。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション、解剖学用語 第2週目 骨格系総論、骨の構造 第3週目 骨の発生と成長 第4週目 骨表面の形状についての用語、骨の連結 第5週目 前期テスト　第1回 第6週目 前期テスト　第2回 第7週目 胸郭、胸骨、肋骨 第8週目 上肢骨の構成、肩甲骨、鎖骨 第9週目 上腕骨、橈骨、尺骨 第10週目 手根骨、中手骨、指骨、種子骨 第11週目 下肢骨の構成、寛骨、骨盤、大腿骨、膝蓋骨 第12週目 脛骨、腓骨、足根骨、中足骨、指骨 第13週目 脊柱、頭蓋 第14週目 前期テスト　第3回 第15週目 前期テスト　第4回 第16週目 上肢、下肢、胸郭の連結 第17週目 骨格筋総論 第18週目 咀嚼筋、広頸筋、胸鎖乳突筋、舌骨上・下筋群、浅胸筋、横隔膜 第19週目 腹部の筋、浅背筋、深背筋第一層、固有背筋 第20週目 上肢帯の筋、上腕の筋 第21週目 後期テスト　第1回 第22週目 後期テスト　第2回 第23週目 前腕の屈筋、前腕の伸筋 第24週目 母指球筋、小指球筋、中手筋 第25週目 内寛骨筋、外寛骨筋 第26週目 大腿の伸筋、大腿の内転筋、大腿の屈筋 第27週目 下腿の伸筋、腓骨筋群、下腿の屈筋 第28週目 骨格筋の支配神経について 第29週目 後期テスト　第3回 第30週目 後期テスト　第4回 （授業の方法および自学学習について） 講義方法は範囲によって異なる。詳細は都度説明する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 授業計画は講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。									
教科書・参考書等	（社）全国柔道整復学校協会監修『解剖学（改訂第2版）』 医歯薬出版 他、授業内容に応じて資料を配布する。									
成績評価の方法	各学期に計4回のテスト（口述および記述、またはそのいずれか）を実施する。 テストは25点満点／回とし、全テストの合計得点を成績とする。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復師の歴史			授業形態	講義	教員名	谷藤　淳史		
科目区分	専門基礎分野	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生
授業概要	医学の歴史に紐づく柔道整復師の歴史を巡り、現代の柔道整復師に求められる役割について 学習する									
授業の 到達目標	・現代医学がどのような変遷をたどってきたのかを理解する。 ・柔道整復師の成り立ちを理解する。 ・現代の柔道整復師に求められる役割を理解する。									
授業内容 ・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション 第2週目 医学史の概説1 第3週目 医学史の概説2 第4週目 医学史の概説3 第5週目 医学史の概説4 第6週目 小テスト 第7週目 柔道整復師の起源と盛衰1 第8週目 柔道整復師の起源と盛衰2 第9週目 柔道整復師の起源と盛衰3 第10週目 柔道整復師の起源と盛衰4 第11週目 柔道整復師の起源と盛衰5 第12週目 現代の柔道整復師1 第13週目 現代の柔道整復師2 第14週目 試験対策 第15週目 期末試験 （授業の方法および自学学習について） 講義方法は範囲によって板書中心、教科書中心、プリント中心と変化する。詳細は都度説明する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 小テスト及び期末試験は、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。									
教科書 ・参考書等	・なし									
成績評価の 方法	期末テスト　（80） 小テスト　（20） ※小テストを欠席した者には、その理由を考慮し再評価の機会を与える場合があるが、最大6割評価とする。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復師と職業倫理			授業形態	講義	教員名	佐藤　邦秀		
科目区分	専門基礎分野	単位数	1　単位	時間数	15 時間	期間	半期	8 回	対象学年	1 年生
授業概要	柔道整復師の業務との関連性の高い社会保障制度の概要と療養費の概要を学び、医療保険と柔道整復師の行う接骨院業務との関係性を考える。 また、接骨院等で接する患者との間に求められる医療倫理や医療職の倫理観を学び、柔道整復師として備えるべき職業倫理とは何かを考える。								
授業の到達目標	・医療保険制度と療養費について概略を理解する。 ・医療倫理、患者の権利の概要を理解する。 ・柔道整復師の職業倫理を理解する。								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 柔道整復師と社会保障制度 第2週目 柔道整復師と医療保険 第3週目 柔道整復師と療養費 第4週目 医療倫理と医療従事者としての心構え 第5週目 柔道整復師の職業倫理1 第6週目 柔道整復師の職業倫理2 第7週目 試験対策 第8週目 テスト、テスト解説 （授業の方法および自学学習について） （授業の方法および自学学習について） ・資料を配布し、パワーポイントを中心に授業を進め、グループワークを取り入れる ・小テストの実施時期については都度連絡する。 ・全8回の授業のため出欠管理に注意すること。								
教科書・参考書等									
成績評価の方法	①　小テストの成績（40%）　※欠席した場合は定期試験から－2点とする。 （公欠対象となる欠席の場合はこの限りでなはい。） ②　期末試験の成績（60%） ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格								

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復総論Ⅰ			授業形態	講義	教員名	髙野　正和		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生

授業概要

①柔道整復術とは何かを学び、骨の損傷について学習していく。
②骨の損傷の理解を深めるため、骨の形態や機能、具体的な名称などを学習する。
③小テスト、期末テストを通じて、国家試験に対応できる知識を学習する。

授業の到達目標

・柔道整復術の意義と人体に加わる外力の概念を理解する。
・骨の形態や機能及び骨損傷とは何かを理解する。

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目	オリエンテーション	第16週目	前期復習
第2週目	人体に加わる力、損傷時に加わる力	第17週目	骨折の合併症①
第3週目	痛みの基礎	第18週目	骨折の合併症②
第4週目	骨の形態と機能、骨損傷の概説	第19週目	骨折の合併症③
第5週目	骨折の分類①	第20週目	骨折の合併症④
第6週目	骨折の分類②	第21週目	小児骨折①
第7週目	骨折の分類③	第22週目	小児骨折②
第8週目	骨折の分類④（小テスト対策）	第23週目	高齢者骨折①
第9週目	前期小テスト	第24週目	高齢者骨折②（小テスト対策）
第10週目	骨折の局所症状	第25週目	後期小テスト
第11週目	骨折の固有症状	第26週目	骨折の癒合日数、骨折の治癒経過
第12週目	骨折の全身症状	第27週目	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子
第13週目	前期総復習	第28週目	後期総復習
第14週目	前期期末テスト	第29週目	後期期末テスト
第15週目	前期期末テスト解説	第30週目	後期期末テスト解説

（授業の方法および注意点）

講義方法は範囲によって板書中心、教科書中心、プリント中心と変化する。詳細は都度説明する。
講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。
各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。

教科書・参考書等

教科書：(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』南江堂

成績評価の方法

前期：前期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。
（不合格の場合は前期再テストの対象となる。）
後期：後期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。
（不合格の場合は後期再テストの対象となる。ただし、前期との合計が120点に到達する場合は再テストを免除とし、単位修得を認める。）
※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

柔道整復専科教員資格

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復総論Ⅱ			授業形態	講義	教員名	佐藤　邦秀		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	総論は、各組織損傷の基礎を学ぶ。総論Ⅱでは、関節（靭帯、軟骨、脱臼）損傷、筋の損傷、腱の損傷、末梢神経の各損傷について、基本的構造と機能、損傷と症状、特徴的な所見を学び、治癒過程を学んでいく。								
授業の到達目標	1）関節の構造・機能と損傷、症状、治癒過程を理解する。 2）筋の構造・機能と損傷、症状、治癒過程を理解する。 3）腱の構造・機能と損傷、症状、治癒過程を理解する。 4）末梢神経の構造・機能と損傷、症状、治癒過程を理解する。								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション 第2週目 骨と関節の基礎知識 第3週目 関節の構造と機能 第4週目 関節の構造と機能 第5週目 関節部損傷の概説・分類 第6週目 関節部損傷の概説・分類、脱臼 第7週目 脱臼 第8週目 脱臼 第9週目 脱臼 第10週目 関節構成組織損傷 第11週目 関節構成組織損傷 第12週目 関節構成組織損傷 第13週目 前期総復習 第14週目 前期期末試験 第15週目 試験解説、問題演習 第16週目 関節構成組織損傷 第17週目 筋の構造と機能 第18週目 筋の構造と機能 第19週目 筋損傷の概説・分類 第20週目 筋損傷の分類・症状・治癒機序・予後 第21週目 腱の構造と機能 第22週目 腱損傷の概説・分類 第23週目 腱損傷の分類・症状・治癒機序 第24週目 末梢神経の構造と機能 第25週目 末梢神経損傷の概説・分類 第26週目 末梢神経損傷の分類 第27週目 末梢神経損傷の症状・治癒機序 第28週目 後期総復習 第29週目 後期期末試験 第30週目 試験解説、問題演習 （授業の方法および自学学習について） ・資料を配布し、資料に基づいて板書を中心に授業を進める。授業の最後に確認問題を行い授業内容の復習をする。 ・授業進度に基づき、前期・後期に各1回小テストを行う。 ※小テストの実施時期については都度連絡する。								
教科書・参考書等	（社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』 南江堂 （社）全国柔道整復学校協会　監修『解剖学（改訂第2版）』 医歯薬出版								
成績評価の方法	①小テストの成績（20%）※60点未満または欠席した場合は定期試験から－2点。 （公欠対象となる欠席の場合はこの限りでなはい。） ②期末試験の成績（80%） ①、②は半期ごと行う。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格								

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復総論Ⅲ			授業形態	講義演習	教員名	菅野 貴宏			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	神経学的検査の意義や実施方法、評価方法を学習し、2、3年次の診察評価の理論的な土台作りを行う。 それに関連する構造や形態も学習して理解を深めながら、神経学的検査の基本を学ぶ。									
授業の到達目標	1）基本的な神経系の構造や役割を理解して神経学的検査との関係性が答えられる。 2）各検査の意義や実施方法が答えられる。 3）各検査の評価方法が答えられる。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 ガイダンス／神経学的検査とは 第2週目 神経学的検査の基礎1 第3週目 神経学的検査の基礎2 第4週目 神経学的検査の基礎3 第5週目 神経学的検査の基礎4 第6週目 小テスト 第7週目 神経学的検査の基礎5 第8週目 神経学的検査の基礎6 第9週目 神経学的検査の基礎7 第10週目 神経学的検査の基礎8 第11週目 小テスト 第12週目 神経学的検査の基礎9 第13週目 神経学的検査の基礎10 第14週目 試験対策 第15週目 筆記試験/解説 第19週目 神経学的検査の基礎11 第20週目 神経学的検査の基礎12 第21週目 神経学的検査の基礎13 第22週目 神経学的検査の基礎14 第23週目 神経学的検査1 第24週目 神経学的検査2 第25週目 小テストと検査評価の点検 第26週目 神経学的検査3 第27週目 神経学的検査4 第28週目 神経学的検査5 第29週目 神経学的検査6 第30週目 小テストと検査評価の点検 第31週目 試験対策 第32週目 試験対策 第33週目 筆記試験/解説 （授業の方法および自学学習について） ・許可なく授業内容の撮影/録音/SNS等のオンライン上への投稿は禁止とする。 ・毎時間課題を課すので忘れずに提出すること。 ・各課題の正答率が60%未満の場合は追加課題を課す。 ・Googleクラスルームを使用するため、各自接続できる端末を持参すること。									
教科書・参考書等	（社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』 南江堂 （社）全国柔道整復学校協会　監修『解剖学（改訂第2版）』 医歯薬出版 （社）全国柔道整復学校協会　監修『生理学（改訂第4版）』 南江堂　他、授業内容に応じて資料を配布									
成績評価の方法	次の評価項目によって成績を集計するが、各学期で60点未満の場合は追加課題を課す場合がある。 前期は筆記試験(70%)＋小テスト(30%) 後期は筆記試験(70%)＋小テストと検査評価の点検結果(30%) ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	外傷の保存療法			授業形態	講義	教員名	古小高　朗浩		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生
授業概要	柔道整復師の治療法である『 整復 』、『 固定 』、『 後療法 』や患者への指導管理、外傷の予防についての理論を学ぶ。									
授業の到達目標	①一般的な保存療法の概念を理解し、他者に説明出来るようになる事を目標とする。 ②問題演習を反復し、国家試験問題に対応できる知識を養う。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 骨折の整復法 第2週目 骨折の整復法 第3週目 脱臼の整復法 第4週目 軟部組織損傷の処置 第5週目 固定法 第6週目 第1回小テスト ／ 手技療法 第7週目 運動療法 第8週目 物理療法 第9週目 物理療法 第10週目 指導管理 第11週目 外傷予防 第12週目 第2回小テスト 第13週目 前期総復習 第14週目 期末試験 第15週目 テスト解説 （授業の方法および自学学習について） ・授業は必要に応じて板書やプロジェクターを使用する。各自ノートの準備を忘れないこと。 ・自学学習は教科書を中心にすすめること。 ・授業後には定期的に課題を課す。提出期限は1週間とし、提出課題は成績評価の一部とする。授業を欠席した場合は登校後に課題を受け取りに職員室を訪問し、課題の作成・提出を行うこと。									
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編（改訂第7版）									
成績評価の方法	①提出課題20点分（全ての課題の提出をもって20点評価とする。未提出課題1つにつき2点を減点する。） ②小テスト30点分 ③前期期末試験50点分 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復各論Ⅰ			授業形態	講義	教員名	谷藤　淳史		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1年生
授業概要	各損傷の概要や、発生機序、症状、整復法、固定等を学び、臨床現場で判断し、対応できる知識の習得を図る。実際の臨床現場で扱うことの多い損傷に関しては、整復、固定等実技の習得も図る。 また、本講義では各損傷の理解を深めるために運動器の解剖学的知識の復習を行う。								
授業の到達目標	1）解剖学、運動学的視点からの各損傷の理解 2）臨床上重要となる特徴の理解 3）各損傷における柔道整復術の修得								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション 第2週目 頭蓋骨骨折1 第3週目 頭蓋骨骨折2 第4週目 頭蓋骨骨折3 第5週目 頸椎骨折1 第6週目 頸椎骨折2 第7週目 頸椎骨折3（小テスト対策） 第8週目 ＜前期小テスト＞ 第9週目 胸椎骨折1 第10週目 胸椎骨折2 第11週目 腰椎骨折 第12週目 肋骨骨折1 第13週目 肋骨骨折2 第14週目 肋骨骨折3（期末試験対策） 第15週目 〈前期期末試験〉 第16週目 前期総復習 第17週目 胸骨骨折 第18週目 顎関節脱臼1 第19週目 顎関節脱臼2 第20週目 脊椎脱臼、頭部/顔面打撲 第21週目 顎関節症1 第22週目 顎関節症2、外傷性顎関節脱臼（小テスト対策） 第23週目 〈後期小テスト〉 第24週目 外傷性頸部症候群（むちうち） 第25週目 胸郭出口症候群1 第26週目 胸郭出口症候群2 第27週目 寝違え 第28週目 胸・背部の軟部組織損傷 第29週目 背・腰部の軟部組織損傷（期末試験対策） 第30週目 〈後期期末試験〉 （授業の方法および注意点） 講義方法は範囲によって板書中心、教科書中心、プリント中心と変化する。詳細は都度説明する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。								
教科書・参考書等	社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』 南江堂 社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』 南江堂								
成績評価の方法	【前期】小テスト：20%　期末試験：80% （不合格の場合は前期再テストの対象となる。） 【後期】小テスト：20%　期末試験：80% （不合格の場合は後期再テストの対象となる。ただし、前期との合計が120点に到達する場合は再テストを免除とし、単位修得を認める。） ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	柔整専科教員免許								

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復後療法演習			授業形態	実技	教員名	鈴木　美加		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	15 時間	期間	半期	8 回	対象学年	1 年生
授業概要	柔道整復師が治療法として行う各後療法について実技演習を行い学習する。									
授業の到達目標	1）手技療法　各基本手技の作用・効果、禁忌を理解し、目的に応じた手技を行うことができる。 2）運動療法　運動療法の種類、目的、禁忌を理解し、器具を用いた運動療法の指導・実践を行うことができる。 3）物理療法　物理療法の分類、適応と効果、禁忌を理解し、目的に応じた物理療法の選択・取扱いができる。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 後療法、手技療法 第2週目 手技療法 第3週目 運動療法 第4週目 運動療法 第5週目 物理療法 第6週目 物理療法 第7週目 期末試験 第8週目 試験解説、後療法の実際 ※成績評価欄 補足 取り組みが悪い場合　例)実技を行わず見ているだけや私語の多さが目立つ場合									
	（授業の方法および自学学習について） ・実習内容に応じた場所で授業を行う。場所は都度伝える。 ・服装は、手技療法、物理療法の週は白衣、運動療法の週は動きやすい服装で行う。 ・授業中の携帯電話の使用（録音、録画等含む）、SNS等への投稿を認めない。 ・水分補給は、休憩時間に行うこと。但し、運動療法の授業の際は水のみ可とする。									
教科書・参考書等	（社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・理論編（改訂第7版）』 南江堂 （社）全国柔道整復学校協会　監修『柔道整復学・実技編（改訂第2版）』 南江堂									
成績評価の方法	実習点(30点)/期末試験(70点)　但し、実習点は本試験(筆記試験)の受験をもって有効とする。 実習点は実習にしっかり取り組めば与える。取り組みが悪い場合や欠席した場合は1回の授業につき3点を減点とする。 上記の項目が60点以上の場合に合格とする。 ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務									

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復基礎実技Ⅰ			授業形態	実技	教員名	半澤　優		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生

授業概要	実技/座学を通して包帯法・固定法を習得する。 基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法、絆創膏固定を習得することで種々の疾患に対応できるように理解し、技術を磨いていく。
授業の到達目標	柔道整復師に必要な包帯法及び固定法の基本的技術を習得すること。 先人たちが古来から研鑽してきた技術と知識を理論的に理解しつつ最新の技術や固定材料についても学ぶことで、2年次以降のより実践的な包帯法及び固定法へのスムーズなステップアップを果たすための基礎形成を目的とする。
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 オリエンテーション（授業概要/服装規定） 第2週目 巻軸包帯の基礎/基本包帯法（環行、螺旋、蛇行） 第3週目 基本包帯法（麦穂①） 第4週目 絆創膏固定（足関節内反捻挫） 第5週目 基本包帯法（折転） ※ 第6週目 基本包帯法（亀甲） ※ 第7週目 基本包帯法（麦穂②） ※ 第8週目 固定の目的・範囲・肢位/部位別包帯（足関節部①） 第9週目 部位別包帯法（足関節②） ※ 第10週目 部位別包帯法手指～手関節①） 第11週目 部位別包帯法手指～手関節②） ※ 第12週目 部位別包帯法（手関節～上腕） ※ 第13週目 部位別包帯法（下腿部） ※ 第14週目 前期期末試験（筆記） 第15週目 三角巾の使い方 第16週目 絆創膏固定（足関節捻挫①） 第17週目 絆創膏固定（足関節捻挫②） 第18週目 絆創膏固定（足関節捻挫③） ※ 第19週目 固定材料の種類と特性 第20週目 冠名包帯法（デゾー包帯①） 第21週目 冠名包帯法（デゾー包帯②） ※ 第22週目 冠名包帯法（ヴェルポー包帯） ※ 第23週目 冠名包帯法（ジュール包帯） ※ 第24週目 ギプス固定の実際 第25週目 固定材料の作製（吸水硬化性キャスト材）① 第26週目 固定材料の作製（吸水硬化性キャスト材）② 第27週目 絆創膏固定（肘関節MCL損傷,腓腹筋肉ばなれ） 第28週目 再評価日 第29週目 後期期末試験（筆記） 第30週目 固定材料の作製（晒包帯、厚紙副子） （授業の方法および自学学習について） ・授業は実技をメインに実施する。（服装は白衣） ・許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。 ・授業中の必要な飲料摂取は許可する。
教科書・参考書等	（社）全国柔道整復学校協会監修『包帯固定学（改訂第2版）』 医歯薬出版 ※筆記用具持参
成績評価の方法	前期　：　実技テスト70%（再評価制度あり）／期末筆記試験30% 後期　：　実技テスト40%（再評価制度あり）／期末筆記試験60% ※前期／後期とも再試験は「実技試験」にて実施する。 ※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格 接骨院勤務：5年、整形外科クリニック勤務：2年

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	柔道整復基礎実技Ⅱ			授業形態	実技	教員名	鈴木　美加		
科目区分	専門分野	単位数	2　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生

授業概要

患者との信頼関係を築き、柔道整復師の業務を正しく遂行するための正しい医療面接について学び、また患者のもつ身体的異常を的確に把握、評価し、最適な治療法を選択・実行するための身体評価法を学習していく。

授業の到達目標

1）医療面接の方法を習得する。
2）各種評価法の基本的手順を習得する。
3）施術録の扱いと記載の仕方を習得する。

授業内容・計画

（授業計画）

第1週目　オリエンテーション/診察の意義と進め方	第16週目　関節可動域測定
第2週目　診察の意義と進め方	第17週目　関節可動域測定
第3週目　身体評価の流れ/評価の時期による分類	第18週目　関節可動域測定
第4週目　受付の流れ/受付表の記入の仕方	第19週目　関節可動域測定　実技試験
第5週目　問診表の記入の仕方	第20週目　関節可動域測定　実技試験
第6週目　医療面接基礎　演習	第21週目　関節可動域測定　実技試験
第7週目　医療面接基礎　演習	第22週目　徒手筋力検査法
第8週目　医療面接基礎　実技試験	第23週目　徒手筋力検査法
第9週目　医療面接基礎　実技試験	第24週目　徒手筋力検査法
第10週目　上・下肢長計測 ／ 上腕、大腿の周径計測	第25週目　徒手筋力検査法　実技試験
第11週目　上・下肢長計測 ／ 上腕、大腿の周径計測　実技試験	第26週目　徒手筋力検査法　実技試験
第12週目　上・下肢長計測 ／ 上腕、大腿の周径計測　実技試験	第27週目　徒手筋力検査法　実技試験
第13週目　上・下肢長計測 ／ 上腕、大腿の周径計測　実技試験	第28週目　施術録の扱いと記載の仕方
第14週目　前期総復習	第29週目　後期総復習
第15週目　前期試験/前期試験返却、解説	第30週目　後期試験/ 後期試験返却、解説

（授業の方法および自学学習について）
1）授業は座学と実技を行う。
2）実技授業の際は必ず白衣を着用し、アクセサリー等の装飾品ははずすこと。
3）身だしなみには十分に注意し、白衣は常に清潔を保つよう努めること。

教科書・参考書等

1）柔道整復学・理論編（改定第7版）
2）授業内で配布するプリント

成績評価の方法

1）各半期の成績は実技試験ならびに期末試験の成績によって評価する。配点は次の通りとする。
＊実技試験（50点）／期末試験（50点）但し、実技試験の結果は本試験(筆記試験)の受験をもって有効とする。
2）実技試験は特別な事情（公欠等）のない限り再試験は行わないため欠席しないよう注意すること。
3）実技授業への参加が消極的と判断した場合は、1回の授業につき5点を減点する。
例）実技を行わず見ているだけや私語の多さが目立つ場合

※総合成績が120/200点以上を取得した場合に単位を認定する。

実践的教育に関する経歴等

クリニック・整骨院勤務

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	外傷予防の実際Ⅰ			授業形態	実技	教員名	津田　新吾		
科目区分	専門分野	単位数	1　単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	1 年生
授業概要	一般的なスポーツ外傷予防を目的とし、運動が生体に与える影響を理解した上で コンディショニングおよびエクササイズ指導の理論と実践を修得する。 本科目は、日本スポーツリハビリテーション学会（JSSR）認定トレーナー資格に関連する科目である。								
授業の到達目標	① 外傷・障害予防の基本概念を説明できる ② コンディショニング手法を安全に実施できる ③ 対象（競技者・高齢者）に応じた運動指導を理解できる。								
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 外傷予防とは運動が生体に与える影響 第2週目 外傷予防の概要（競技者・高齢者） 第3週目 外傷予防対策（競技者・高齢者） 第4週目 コンディショニング実技 第5週目 コンディショニング実技 第6週目 ストレッチングとは 第7週目 エクササイズテクニック1　事例検討 第8週目 エクササイズテクニック2　事例検討 第9週目 エクササイズテクニック3 第10週目 エクササイズテクニック4 第11週目 エクササイズテクニック5 第12週目 エクササイズテクニック6 第13週目 エクササイズテクニック7 第14週目 実技テスト 第15週目 期末テスト （授業の方法および自学学習について） 必ず運動着着用の事　実技練習を反復すること。 14週目に実技試験を実施する。公欠となった場合は、時間外で対応するが公欠でない場合は、実施しない。 自学学習は、復習をしっかり行い知識の定着に努めること。								
教科書・参考書等	全国柔道整復学校協会監修教科書　競技者の外傷予防　（公社）全国柔道整復学校協会　監修／小林直行・髙橋康輝　著 NSCAジャパンストレングス＆コンディショニング　エクササイズ・バイブル　NSCAジャパンヒューマンパフォーマンスセンター【著】/福永 哲夫【監修】								
成績評価の方法	期末試験　70%　到達目標①③　実技試験　30%到達目標②　※期末試験四択及び記述問題あり 実技評価基準　S（30）適切な手順で十分正確に実施ができる　A（25）適切な手順で正確に実施ができる B（20）適切な手順である程度正確に実施ができる　C（10）ある程度行えるが、技術の正確性に欠ける D（5）説明と実施ができない ※総合成績が60/100点以上を取得した場合に単位を認定する。								
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格　NSCA-CSCS								

令和　8　年度シラバス

柔道整復スポーツ科学科

授業科目名	トレーニング科学			授業形態	講義	教員名	大津　正久		
科目区分	選択必修科目	単位数	4　単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	1 年生
授業概要	機能解剖学や運動生理学、身体運動学などの基礎的知識を学習する。 各種トレーニングを実技によって学習する。									
授業の到達目標	・基礎的分野を統合し、身体活動による変化を学習し、現場に活かす。 ・各種トレーニング法を学びストレングストレーナーとしての知識を深める。									
授業内容・計画	（授業計画） 第1週目 トレーニング科学とは 第2週目 体力学とは 第3週目 機能解剖学（骨、関節、筋） 第4週目 機能解剖学（骨、関節、筋） 第5週目 機能解剖学（骨、関節、筋） 第6週目 機能解剖学（骨、関節、筋） 第7週目 機能解剖学（骨、関節、筋） 第8週目 機能解剖学（骨、関節、筋） 第9週目 運動生理学（循環器系） 第10週目 運動生理学（循環器系） 第11週目 運動生理学（呼吸器系） 第12週目 運動生理学（呼吸器系） 第13週目 運動生理学（エネルギー代謝） 第14週目 前期期末試験 第15週目 前期期末試験解説 第16週目 運動生理学（内分泌系） 第17週目 運動生理学（神経系） 第18週目 運動生理学（神経系） 第19週目 運動生理学（骨格筋系） 第20週目 運動生理学（骨格筋系） 第21週目 運動生理学（骨格筋系） 第22週目 バイオニクス（てこの作用含む） 第23週目 バイオニクス（てこの作用含む） 第24週目 パワー向上トレーニング 第25週目 スピード向上トレーニング 第26週目 有酸素性持久力トレーニング、無酸素性持久力トレーニング 第27週目 ウォームアップとクールダウン、柔軟性向上トレーニング（ストレッチ） 第28週目 柔軟性向上トレーニング（ストレッチ） 第29週目 後期期末試験 第30週目 後期期末試験解説 （授業の方法および自学学習について） 板書を中心に進行する。									
教科書・参考書等										
成績評価の方法	①前期期末試験50%（100点満点） ②後期期末試験50%（100点満点） 上記評価の総合成績が120/200点（60%）以上とする。									
実践的教育に関する経歴等	①スポーツ系専門学校勤務　②整形外科（運動療法）勤務　③近畿大学講師 ④東北大学アメフト部　トレーニングコーチ									